

スーパー・メガリージョン構想検討会（第13回）議事概要

- 1 日 時 平成30年6月22日（金）10:00～12:00
- 2 場 所 中央合同庁舎2号館 地下2階講堂
- 3 出席委員 奥野顧問、家田座長、井口委員、大野委員、加藤委員、小林委員、坂田委員、真田委員、寺島委員、中村委員代理 小川氏、八木委員代理 神田氏

4 議事

(1) 開会

(2) 議事

ア 事務局より資料2について説明。以下、主な意見交換。

- ・本検討会の主題は、三大都市圏の集中による力をいかに発揮し、世界の都市と競争するかということではないか。8頁8行目の「東京一極集中が依然として進展している」というのは事実だが、書き方を少し工夫してほしい。9頁の25行目に「東京一極集中の是正を図り」とあるが、一方で27行目には「グローバルに羽ばたく国土」を形成する」とあり矛盾していないか。11頁24行目について、企業活動からすると「時間」からの解放に加え、「空間」からの解放まで描くとすれば、東京圏の高賃料をどう解決するかということを書き記述する必要があるのではないか。移動時間の劇的な短縮だけで全ての課題が解決するようなイメージになるのは望ましくない。13頁2行目の東京圏の住居コスト、通勤時間に関する記述については、三大都市圏が一体化する中でどう解決していくかを考えていくべき。16頁のイメージ図だが、矢印が多く、言いたいことが本当に言えているのか疑問。

（井口委員）

- ・（岸計画官）スーパー・メガリージョン（以下「SMR」という）の最大の特徴は、三大都市圏が一体化するという点で、書き方は工夫する余地があるか検討したいが、事実として、政府全体としても一極集中の是正を目指しているところもある。高賃料等に関するご指摘については、今後の最終とりまとめに向けた議論における論点と認識している。イメージ図も、各委員のご意見に配慮して作成したものである。
- ・9頁の「東京一極集中の是正」、「国土の均衡ある発展を目指す」と10頁8行目の「SMRを核としつつ、全国に波及させる」のつながりがうまく読み取れない。時間的な流れとして、全国同時に力を付け、国際競争に勝とうというスタンスなのか、まずはSMRで国際競争力を付け、それを全国に波及させていくスタンスなのか。その辺りを説明してほしい。（大野委員）
- ・（岸計画官）時間的な流れについては、SMRの成長を全国に波及していくということだが、すぐに波及させていきたいという思いで書いている。
- ・タイトルについて、「世界を先導するSMRの形成」というのは何にでも当てはまり、エッジが効いていない印象。（加藤委員）
- ・意見交換の最後までに代案を提案いただき、比較検討したい。（家田座長）
- ・各委員のご指摘は、三大都市圏が一体化し、それ自身が力を付けていくという話と、その波及効果で地方を元気にするという話、三大都市圏の中でも東京圏・名古屋圏・関西圏がどういう力を発揮しながら全体として強い力を発揮するのかという話の3つに分類できるが、東京一極集中の記述が多いと、最初の2つが緩む懸念がある。一方で、中部圏や関西圏は、東京一極集中について非常に大きな問題意識を持っており、記述のバランスを取りながらまとめることが重要。（家田座長）
- ・15頁16行目の「正のスパイラル」の説明について、「価値創造」という言葉がいきなり出て来るなど、この文章だけではイメージしにくい。説明を追加して分かりやすくすべき。15頁20行目の「ライフスタイルを享受しながら次世代へとつなげていく“正のスパイラル”」の記述についても、説明を追加した方がいいと思う。（小林委員）
- ・（岸計画官）ご指摘については、もう少し分かりやすく書きたいと思う。
- ・未来投資戦略との関係を考えてみると、未来投資戦略の短期、中期の目標に比べれば、本

構想は長期の目標に繋がっていくものだと思う。そういう時間軸でロードマップを考えると、民間の投資活動は、どうしても短期、中期の目標に偏っており、長期の目標は国の役割が非常に大きい。その役割の中にリニア中央新幹線（以下「リニア」という）に対する国の投資があるということだと思うが、それに加えて今後の議論としては、それを生かすための新しい制度設計等について少し膨らませてはどうか。それから、この中間とりまとめの特徴を考えてみると、従来の国土計画は一言で言うと国土を広く使うというコンセプトでできているのではないかと思うが、今回はその中でも特に人の活動に焦点を合わせていると思う。リニアは基本的に人しか運ばないが、それに加えて価値創造の源泉が、物に関する様々な工程から、新しい情報や知識を創出する工程に大きくシフトしており、結果として、価値の源泉たる人の活動の場として国土をもっと広く使うという整理になったのではないか。また、経済論や社会論と、人の生活に関する議論との関係で言うと、本中間とりまとめでは両者がかなり接近し、オーバーラップが大きくなっている。例えば、新しい価値である「知」を生み出すということで考えると、産業サイドから見れば、そういったフェイス・トゥ・フェイスによる濃度の高いコミュニケーションによって可能性を高めるといふ議論だが、生活サイドから見ると、高齢者の知恵や経験を、週に2日だけ働く形で生かすというようなイメージとオーバーラップする。各章・各節の関係というのは、本当はイメージとしてオーバーラップしていると考えている。文章の修正について1点だけ指摘すると、17頁27行目に「高齢者に生きがいを与える」と書いてあるが、「与える」ではなくもう少し丸まった表現がいい。そういったことが実は高齢者にとってだけではなく、他者の生活にもプラスになるし、オーバーラップするという意味では、経済活動の側面からもメリットがあると思う。（坂田委員）

- ・（岸計画官）オーバーラップしていることが分かる記述については、一考したいと思う。また「生きがいを与える」という部分は修正したい。高齢者だけではない方々、あるいは経済活動にも繋がるというところは少し膨らませたいと思う。
- ・12頁11行目の地方に関する記述について、地方の魅力をどうやって維持していくかという視点が抜けているように思う。18行目の「地域内外の多様な人材の交流・対流が、新たな価値を想像し、持続可能な社会の構築に寄与していくことも期待される」と付け加えているが、抽象的過ぎて、耳障りのいい言葉ばかりが並べられているので、もう少し具体的に書いた方がいいのではないか。農村部や地方の魅力というのは公共財とも呼ばれ、市場経済のもとではどうしても供給過小になるため、公的介入が必要であるとも言われており、今後、論点2、論点3の議論でどのような政策に繋げていくかという過程においても重要なので、地方の魅力は積極的につくっていかないといけないものだという視点を入れた方がいい。また、11頁27行目の、「例えば、共働き世帯では～」という記述は、昨今の働き方改革を意識して、もう少しポジティブな例えにした方がいいのではないか。（真田委員）
- ・（岸計画官）地方の魅力をどう維持するかというご指摘は、国土審議会でも議論している大変大きな問題。その成果も含めて少し工夫をしたい。11頁の例えについても、書き方を工夫したい。
- ・地方は何もしなくても豊かな自然環境やゆとりある空間があるのではという誤解を招く記述になっているのご指摘だったが、8頁の「我が国が抱える課題と強み」のところで、自然条件も放っておくと疲弊していく恐れがあるということを書いておいて、12頁のところでは、潜在的には豊かな自然があるけれども、手を入れずに放っておくと困ってしまうというニュアンスが分かるように記述してはどうか。（家田座長）
- ・農村部の自然環境というのは、人の手が入っているからこそ保たれている自然であり、良好な環境なので過疎化に伴って当然疲弊、崩れていくということがあるので、そういう事実を記述した方がいい。（真田委員）
- ・本中間とりまとめに深み、厚みを持たせるために3点発言したい。1点目は、8頁に大都市圏の高齢化に関する記述があるが、田舎の高齢化とは質が違うことまで踏み込んだ記述

が必要。大都市圏に産業と人口を集中させて成長してきた時代を支えた人たちが今、都市郊外に高齢者となって集積している。例えば、働きたいと思っても、高齢者に提供されるジョブとのミスマッチが、ある種のフラストレーションを起こしている。2点目は、6頁12行目にインバウンドに関する記述があるが、6000万人という目標達成に向けた、観光を支える人材が必要になってくる。かつて海外で活動していたり、語学に堪能な人たちが、都市郊外に集積しており、観光の付加価値を高める人材として、高齢者の社会参画を図っていくべきという文脈が必要。3点目は、巻末参考資料の34頁に関連して、三大都市圏で住居費のコストにギャップがあり、これを移動と交流を促す「正のスパイラル」に繋げるというニュアンスが出ないといけない。(寺島委員)

- ・(岸計画官) そのような問題意識について書き込まれていない部分があるので少し検討したいと思う。また、大変深い問題意識で、今後の大きな論点にもなると思う。
- ・高齢者という存在や集団に対して、生きがいを与えよとか、あるいは活用するということではなく、知恵や経験の塊としての高齢者が次の世界をつくり出すということ。書きぶりの修正や文言の補いが相当あると感じた。(家田座長)
- ・タイトルについては、国内の課題解決もあるが、世界を先導するSMRを形成するというのが目標だと思う。そういう意味では、16頁20行目にある首都圏・中部圏・関西圏のそれぞれの機能についての記述は、現在既にあるようなもので、これを伸ばせば世界を先導するSMRになれるのかということは改めて考えなくてはならない。具体的には論点2、論点3に繋がっていくと思うが、いろいろな分野がある中で、世界へのプレゼンスを高めるということを目的に、SMRの形成で何ができるのかを考えていかなければならない。中部であれば、ものづくりや技術を高めていくためにイノベーションはもっと必要だろうし、関西でいえば、アジア経済との連携もあり、そんなこともこの部分に入れることができるのではないかと思った。中間駅に対しては、17頁でライフスタイルや働き方について記述があるが、実際に地元の方と話をすると、リニアの開業で、とにかく観光客を呼び込みたいのだという議論が中心になる。12頁20行目にもあるが、新しいライフスタイルの人とどう暮らしていくかという議論がまだ中間駅周辺ではあまりされていない。そういうことも議論していくことが必要だと思う。違う価値観の人が入ってくることに對して、保守的な一面もある。18頁14行目に、4つの主要国際空港についての記載があるが、中部空港をはじめ空港の機能強化は必要。それから2頁に、新大阪駅の増強に関する記載があり、北陸地方や中国地方、四国地方との繋がりを高めていくためには大切だと思うが、北陸新幹線開通まであと何年か考えると前倒しの議論もあるかと思う。(小川専務理事)
- ・新大阪駅の結節機能に関する記述は、大変重要な課題だと思っている。関西では、特に「ルックウエスト」と言っていて、アジアにおけるビジネス拠点の強化等も考えているので、論点2、論点3に関する議論の中で披露したい。また、西日本地域の地方整備局が中心となって、SMRの勉強会もやっており、そこでの視点も、可能であれば取り入れてもらえたらと思う。最後に、論点2、論点3に関する議論の進め方について、具体的な考えがあれば教えてもらいたい。それから、この中間とりまとめは大変豊かな内容にもらったので、概要版のようなものがあれば本検討会の関係者以外の方との議論喚起にも繋がるのではないか。(神田理事)
- ・(岸計画官) まさに、論点2、論点3の今後の議論に繋がるところで、三大都市圏が一体化した中で、中部圏・関西圏の個性をどのように伸ばしていくべきなのか、そういう考えを持っているのかということをご披露していただけたらと思う。概要版についてのご指摘があったが、少なくとも本日配布の中間とりまとめ、資料集に加え、ゲストスピーカーの発言要旨は公表し、印刷等して関係者に配りたいと思う。
- ・概要版については、このメンバーでこれだけ議論してもニュアンスはいろいろあり、中途半端な概要版をつくると、訳の分からないものになる恐れがある。(家田座長)
- ・第二次国土形成計画におけるSMR構想の議論も踏まえて深掘りしていると思う。「骨太の方針」や「未来投資戦略」も取り込んでおり、構想の実現に向けて箔が付くのではないか。

国土審議会やその計画推進部会の中でも、本検討会に關係する意見として、「東京、名古屋、大阪が一体となって今の国内の成長を牽引しているというのは事実だが、大阪と名古屋が一体となって東京に対峙していくといった視点も大事なのではないか。」という趣旨の発言があり、印象的だった。沿線地域におけるリニア駅周辺の検討の進め方はいろいろで、具体的な実施計画を作成しているところもあれば、まだ青写真のところもあり、今回の検討は、各地域が具体的な検討を進めていく中での、大きなバックボーンになると思う。SMRの沿線地域以外のエリアで意見交換する機会もあるが、リニア、SMRに関する理解のレベルやされ方はいろいろだと思う。どういう方法で積極的に全国各地域に浸透させていくのか。その努力は必要である。(奥野顧問)

- ・(岸計画官) エリア毎の理解のされ方もいろいろということで、SMRを形成していくことを広める努力は、皆様の力も借りながらみんなでやっていくということだと思う。中間とりまとめを契機にそういう努力をしていきたい。
- ・1頁の「リニア中央新幹線の概要」について、リニアは整備新幹線ではなく、JR東海が防災の観点、あるいは、50年以上経つ東海道新幹線の設備更新という視点から自主的に整備したいということで始まった事業で、その方式やルートの審議を経て、整備計画が決定されたことがスタートというところが重要。それを受けて、2015年の第二次国土形成計画において、国土にとってもプラスの効果が考え得るということで、国策的な決定から2016年に財政投融资が決まった。そういうことを書いた方が親切ではないか。次に、16、17頁の「三大都市圏の一体化による」というところが本中間とりまとめの核心部になるが、失われた20年や、ガラパゴス化等に触れつつ、「内なる国際化」の必要性を記述したい。技術の世界ではSociety5.0を推進しているが、技術以外の世界で国際競争力を持つには様々なことを組み合わせて取り組んでいくことが必要不可欠。そうした改革が迅速かつ着実に行われることが必要条件であるということを入れた方がいい。また、18頁14行目の「各空港が有機的に連携し」について、「有機的」という言葉の意味合いは、羽田空港だけでなく関西国際空港も切迫し、相互補完的に機能を発揮するという。もう少し分かりやすく表現した方がいい。最後に、20頁の「終わりに」で、「論点2、論点3について、関係自治体、経済団体と意見交換しながら」との記述があるが、関係自治体、経済団体と限定せずに、いろいろな人の意見を聞いてはどうか。(家田座長)
- ・(岸計画官) リニアの経緯等について書き加えたい。国際競争力については、リニア開通だけでできるものではないという前提を踏まえて書き足したい。「有機的」というのは、相互補完的という意味なので書き換えたい。
- ・タイトル案について、3パターン考えた。1つ目は、「人口減少社会に打ち勝つSMRの形成に向けて」。2つ目は、「「時間」と「場所」の解放によるイノベーションを生むSMRの形成に向けて」。3つ目は、「都市力の最大化と全国への波及を目指すSMRの形成に向けて」。それぞれの意図を説明すると、1つ目については、本当に世界を先導できるのかということ。巻末参考資料8頁に「主要国におけるGDPの将来予測」があるが、他国は人口ボーナスで、かつての日本のような経済成長をしてくる。そこに対しても競争力を持つということがテーマの1つになるのではないか。先導するのではなくて違う形で戦うということで、引き続き強い日本にいるためにというメッセージを一応込めたパターン。2つ目については、リニアができることにより人々の行動変容が起こらなければならないということ。イノベーションを生むのは人なので、「時間」と「場所」から解放されることにより増える交流量というのは、フェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーションでイノベティブなアイデアや事業を生むのかと。国民一人一人がイノベーションを生む主役であることを認識してもらう必要があり、リニアではなく、人を主役にするという意図を込めた。3つ目については、全国満遍なく発展する時代ではないということ。都市は都市の役割を強化し、地方は地方の魅力を強化する、その役割分担において国としての競争力を保ち、かつ、個人のライフスタイルの多様性及び幸せを目指していくということで考えてみた。(加藤委員)

- ・ 1つ目の案については、内容的にはそういうことだと思うが、いろいろなところで使われているので被りがある。「世界を先導する」というのは、日本が意図を持って良いシナリオを実現していくという意味で理解している。人口爆発する国に同じモデルを使うというのではなく、影の部分に対して代案を示すと解釈したい。(坂田委員)
- ・ (岸計画官) タイトルに関して、「世界を先導する」というのは、日本にいろいろな課題がある中で、その課題を解決していくときに、世界的には一番先頭に立っており、影の部分を解決していくことも含めた意味合いで使っているというのが事務局の考え方。当初、事務局としては、「時間」と「場所」からの解放」というサブタイトルを付けていた。「SMRの形成に向けて」というところと合わせて、「時間」と「場所」からの解放による多様な対流と価値の創造」がSMRとどう関係するかということもあり、2つ目の案が当初のものに近いと思う。
- ・ 本日いただいた意見について、座長一任としてもらえれば、事務局と相談して最終版にしたいと思う。タイトルについても、「人口減少に打ち勝つ」というのは、日本の次代への国是のようなところがあり、活力を付けることによって勝つという意味では、「世界を先導する」ということでもある。一方で、「時間」と「場所」からの解放」というのはずっと議論してきたところでもあり、サブタイトルに入れる手もあるかと感じた。(家田座長)

イ 事務局より資料3について説明。(質疑なし)

ウ 事務局より、今後は座長とも相談の上、中間とりまとめ公表に向けた準備を進めていくことと、最終とりまとめに向けた検討会は本年秋頃から予定していることが周知された後、閉会となった。

以 上